

名古屋芸術大学グループ 大通信

66
April
2026



特集

第53回卒業制作展・
大学院修了制作展



名古屋芸術大学グループ

NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS

<https://www.nua.ac.jp/>

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科 学部学科：芸術学部 芸術学科 ■名古屋芸術大学附属クリエイト幼稚園
美術研究科 音楽領域 舞台芸術領域 ■海子幼稚園 ■たきこ幼児園 ■たきこ第二幼児園に
デザイン研究科 デザイン領域 美術領域 芸術教養領域 ■奥知保育園 ■幼保連携型認定こども園 森のくまっこ
人間発達学研究科 教育学部 子ども学科 ■名古屋音楽学校

第53回卒業制作展・ 大学院修了制作展

2026年2月14日(土)～2月23日(月・祝)に、本学西キャンパスで
名古屋芸術大学卒業制作展・大学院修了制作展を開催しました。

本特集では、特に優秀だった作品をピックアップ。
キーパーソンコメントとともに、今回で53回目を迎える
卒業制作展・大学院修了制作展を振り返ります。



全作品の閲覧はこちらから
www.nua.ac.jp/group_tsusin/degreeShow53/

第53回卒業制作展・ 大学院修了制作展を振り返って

副学長/芸術学部長/技術センター長 萩原 周



近年、AIをめぐる議論が社会のさまざまな場面で語られるようになりました。芸術やデザインの分野においても同様で、学生たちの制作の環境もこの数年で大きく変化してきているように感じます。昨年までの卒業制作展では、AIと人間の関係そのものをテーマにした作品が多く見られました。AIとは何なのか、人間の創造性とどのような関係にあるのかといった問いが作品の中で提示されていたように思います。しかし今年の展示を見ていると、その段階からさらに一歩進み、AIを実際に制作のツールとして用いる作品が中心となってきた印象を受けました。AIに対する期待や不安を語るというよりも、すでに制作の現場の中に組み込まれ、実装の段階に入ってきたという感覚です。そうした変化は、表現のあり方そのものに新しい状況をもたらしているように思います。

そのような環境の中で、多くの作品から感じられたのは、いわば「確からしさ」への意識でした。AIによって高度なイメージや表現が容易に生成できる時代だからこそ、身体的な感覚や手仕事の痕跡といった、人が制作することによって生まれるリアルな実感を取り戻そうとする姿勢が見受けられたように思います。人が時間をかけて考え、試行錯誤しながら形にしていく過程そのものが、作品の意味を支える要素になっているようにも感じられました。

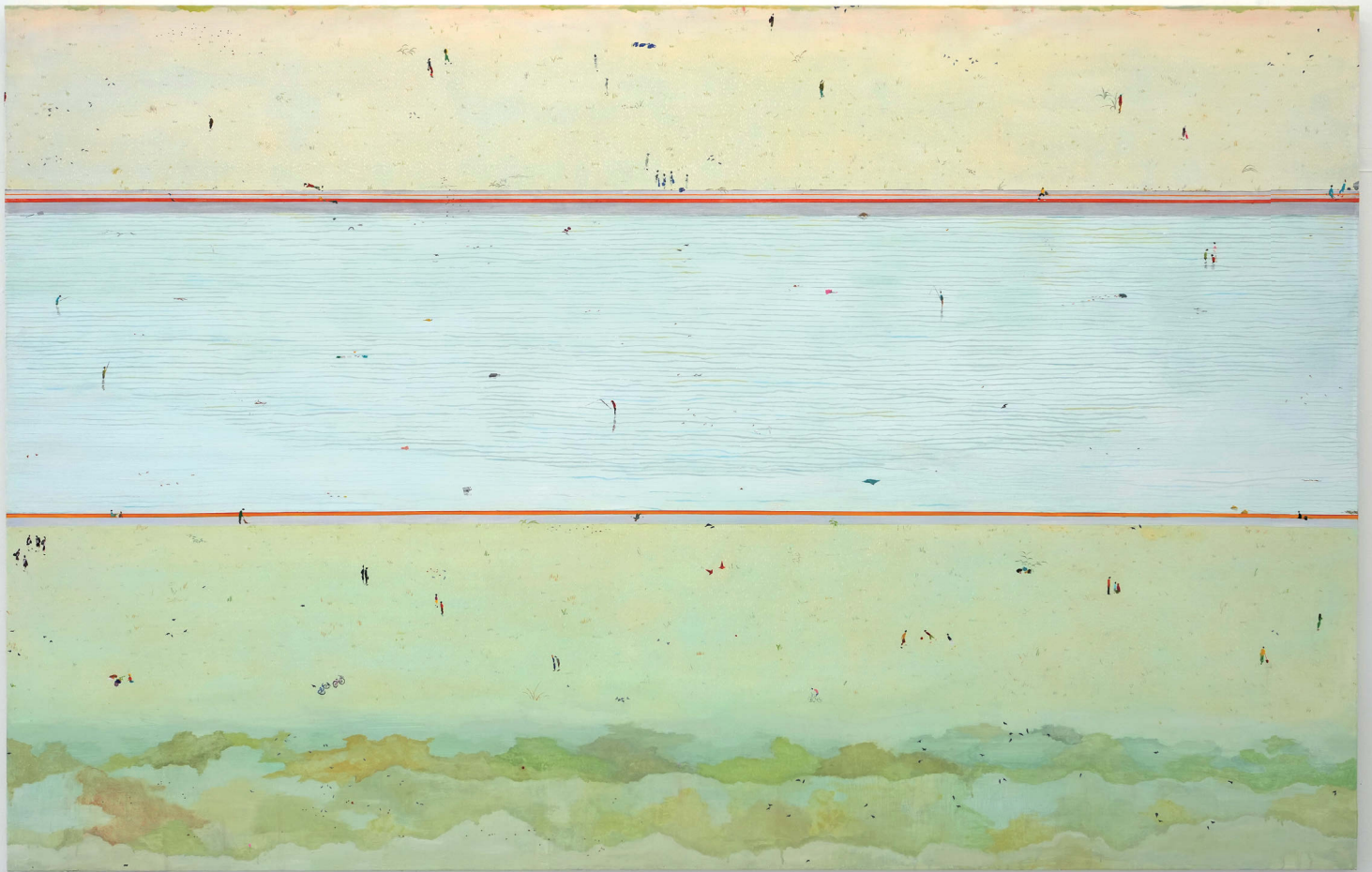
一方で、展覧会全体を見渡したとき、どこか印象の薄さのようなものも感じました。発想と

しては興味深いものが多くありながら、もう一歩踏み込めば大きく展開しそうなところで止まっている作品が少なくなかったように思います。そのことには、学生自身だけでなく、教員側ももう少し踏み込むことができたのではないかという思いが残ります。そうした感覚も含めて、今回の卒業制作展にはどこか「せつなさ」のようなものが漂っていたように感じました。

その背景には、現在の社会の空気も関係しているのかもしれませんが。誰もが慎重にならざるを得ず、少しの間があれば足をすくわれてしまうような時代の中で、大胆に踏み出すことが難しくなっている。そのような状況が、表現のあり方にも影響しているのではないかと思います。

しかしながら、今回の展示を見ていて感じたのは、多くの学生が社会の状況や自分の置かれている環境を、自分自身の問題として引き受けて制作に向き合っていた点でした。与えられたテーマを処理するのではなく、日常の中で感じている違和感や不安、あるいは個人的な経験を出発点として作品を立ち上げようとする姿勢が随所に見られました。

こうした姿勢は、芸術表現の根本に関わる重要な部分でもあります。現状を自分事として受け止めその中から表現を立ち上げようとする試みは今回の卒業制作展の特徴の一つであり、今後の制作にもつながっていく重要な動きであるように感じました。



侵食、運搬、堆積

卒業・修了制作展 最優秀賞

洋画コース
堀出奏月



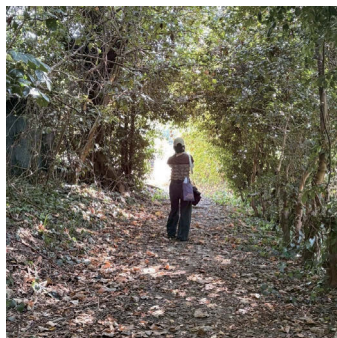
横長の画面に広がる川の風景。遠くから眺めると、水平に重なる色面が印象的で、抽象画のようにも見えます。しかし近づくにつれて、川辺に佇む人々や鳥、落ちているゴミなど、日常の断片が点のように現れてきます。鑑賞者は画面の中を視線で往復しながら、小さな出来事や時間を発見していきます。抽象的な構造と具体的な情景が行き来する独特の視覚体験が、この作品の魅力です。

タイトルの「侵食、運搬、堆積」は、川の働きを示す地形学の言葉です。水が地形を変えながら物を運び、やがて積み重なっていく

ように、人の記憶もまた人から人へと運ばれ、時間の中で蓄積されていきます。画面に点在するモチーフは、それぞれが小さな物語と時間を内包しています。

作者の堀出さんは「遠くから見ると抽象的な画面ですが、近づくると人々の営みが見えてきます。鑑賞者が画面の中でそれぞれの時間や記憶を見つけていく体験になればと思いました」と語ります。川の流れのように重なり合う無数の時間を、絵画ならではのスケールと構成によって描き出した作品です。





Tenotori -鳥に触れる本

卒業・修了制作展 優秀賞

北名古屋市市長賞

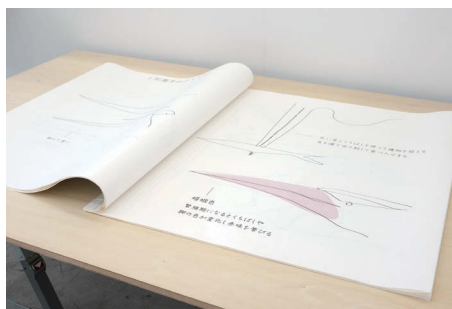
メディアコミュニケーション
デザインコース
伊藤怜奈

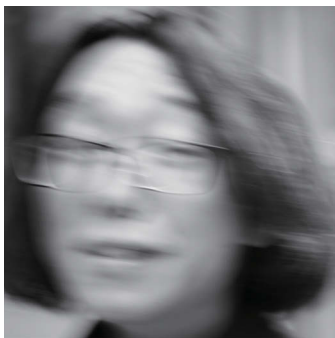
塀の上に集まって鳴き合うスズメ、空中で戯れながら飛ぶカラス、公園で地面をついばむハト。私たちの身近にいる野鳥は、日常の風景の中にありながら、実際に触れることのできないどこか遠い存在でもあります。伊藤怜奈さんの作品「Tenotori」は、そうした野鳥を「本」という形に置き換え、触れる体験として提示した作品です。

制作された本は、鳥のくちばしから尾までの長さを本の縦幅に、翼を広げた長さを横幅に対応させ、さらに体重を本の総重量に置き換えて設計されています。紙の種類や

厚さ、製本方法を検証しながら重さを調整し、実際の鳥に近い感覚を本として再現しました。ページには鳥の形態や生態、文化的なエピソードなどがまとめられており、読みながら鳥について知ることができます。

「鳥は好きでも、野鳥に触れることはほとんどありません。本を手取ることで、その重さや大きさを感じながら鳥を身近に感じてもらえたらと思いました」と伊藤さん。普段は距離のある存在である野鳥を、触覚と読書の体験を通して私たちの手の中に呼び寄せる作品です。





continue

卒業・修了制作展 優秀賞

北名古屋市市長賞

現代アートコース
村上可威



展示空間の中にさらにフレームを設け、その内部に三つの装置を配置したインスタレーション作品です。鉄パイプで組まれた立方体や直方体の枠の中には、日本庭園の鹿威しを思わせる装置、風に揺れる暖簾のような構造、そして風の音が聞こえる木が吊された作品が置かれています。ホワイトキューブという展示空間の中に、さらに空間を区切るフレームを重ねることで、内と外の境界を意識させる構成となっています。

それぞれのモチーフは、日本的な風景や機能を連想させながらも、そのまま再現さ

れているわけではありません。形や仕組みはどこか少しずれており、見る者の認識を揺さぶります。「モチーフそのものではなく、そこから少しずれたものをつくりたかった」と村上さん。吊された木をサンドバッグのようだと感じる人がいるなど、作品と鑑賞者の間に生まれる認識のずれもまた、この作品の一部です。

「人それぞれの見方のずれが面白い」。鑑賞者ごとに異なる解釈が生まれる余白と、ほのかなユーモアを含んだ空間が、世界の見え方の多様さを浮かび上がらせます。





制服

卒業・修了制作展 優秀賞

北名古屋市教育委員会賞

コミュニケーションアートコース
岩田彩花

三匹の羊が、銀色の制服に身を包み、円形の台の上に並んで立つ作品です。周囲の壁には、それぞれの羊がもともと身につけていた服や持ち物が掛けられています。アルバイト先の惣菜売り場で働く際の防護服のような姿から発想し、目元だけが見える独特の制服を制作しました。銀色の質感は、日常的な「制服」に少しSFのような違和感を与え、見る人に強い印象を残します。

羊たちは何かをしているわけではなく、ただ静かに立っています。その姿は、これから何かが始まる直前のようにもあります。「制

服を着ることで見た目が周囲と均一になったとき、どんな自分が現れるのか」という問いを込め、あえて具体的な行動を示さない立ち姿にしました。

背景に並ぶ小物は、それぞれの羊の性格や個性を表すモチーフです。少し誇張された形で制作されており、作品全体にユーモラスで不思議な空気を生み出しています。インパクトのある見た目から観客の関心を引き込み、制服という身近なテーマを通して、個性と同一性の関係について考えさせる作品となりました。





真面目の所在

卒業・修了制作展 優秀賞

北名古屋市教育委員会賞

画荘ヴィーナス賞

名古屋芸術大学美術・
デザイン同窓会賞

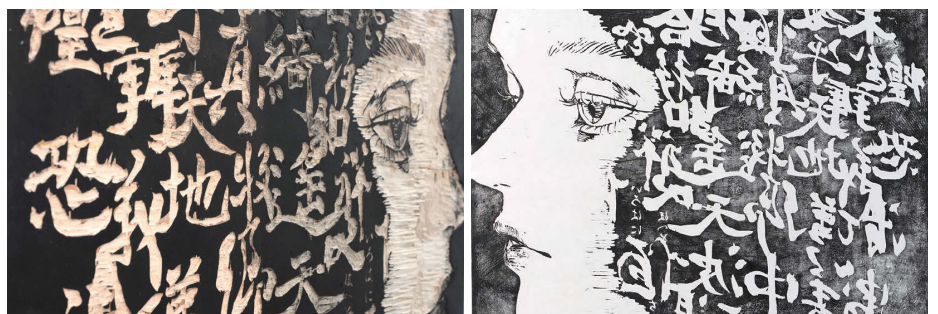
イラストレーションコース
岩畑杏実

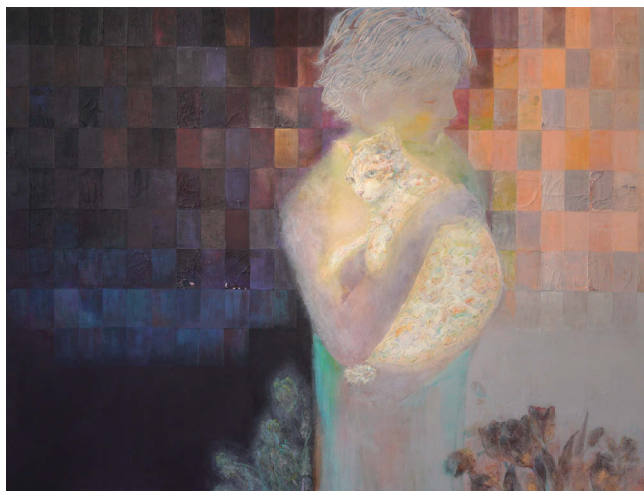
女性の姿と書道の文字を重ね、身体そのものを文字で形づくりの木版画のシリーズ作品。版画だけでなく、制作に用いた木版も併せて展示され、彫刻の痕跡や制作のプロセスが作品の一部として示されています。

岩畑さんがこれまで描いてきた女性像と書道は、どちらにも「美しい形」や「お手本」が存在する世界です。「綺麗な形をなぞるように描けば評価されると思っていた」と語り、これまではそうした基準を意識しながら制作してきました。しかし本作では、その価値観を見つめ直すために木版画という技法を

選びました。線や文字は、彫る工程によって崩れ、刷ることで反転します。整った形を保とうとしてきた表現が、かすれや歪みを伴った画面へと変化していきます。

作品タイトル「真面目の所在」には、他者から向けられる評価に誠実でありたいという思いと、自分自身の意志を持って表現したいという思いの間で揺れる自身の姿が込められています。刷り上がった作品と彫られた版を対比させて展示することで、これまでの自分と、そこからはみ出そうとする新しい自分の両方を可視化しました。





祈りにふれたぬくもり

日本画コース
安藤萌梨

卒業・修了制作展 優秀賞

ブライトン大学賞 佳作

立風賞



遊園地は実在する。

洋画コース
河合華

卒業・修了制作展 優秀賞

後藤紙店賞



崩れる花の女は咲いていた

洋画コース
井田蘭乃

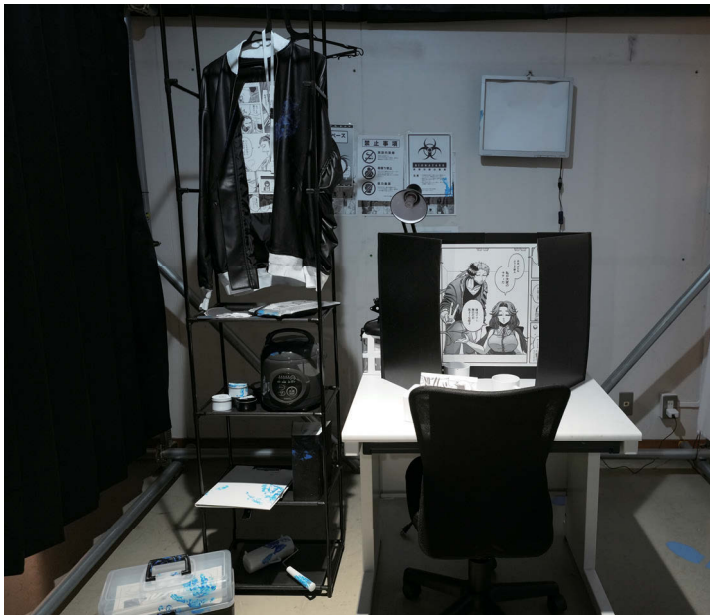
卒業・修了制作展 優秀賞



静かな世界

工芸コース
篠田あすか

卒業・修了制作展 優秀賞



漫画『水槽を叩かないで』
イラストレーションコース
松原椿

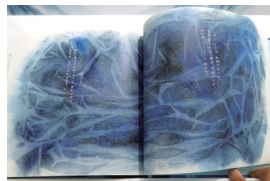
卒業・修了制作展 優秀賞



絵本『雪の村のトウエ』
イラストレーションコース
林亜優

卒業・修了制作展 優秀賞

ジェイアールセントラルビル賞



2023/05/03 15:09
イラストレーションコース
田中佑奈

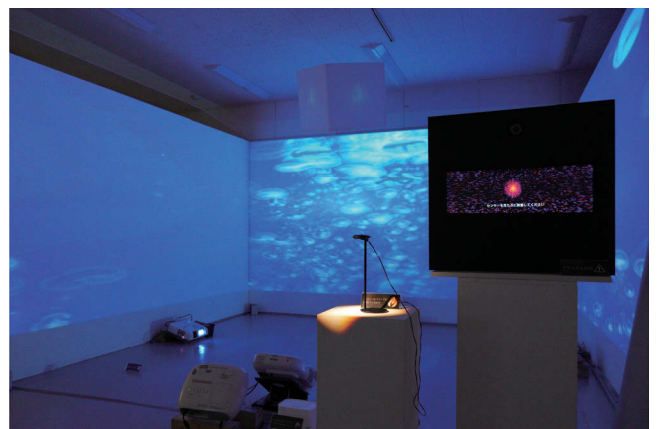
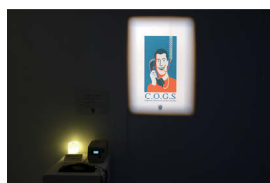
卒業・修了制作展 優秀賞

MOZOワンダーシティ賞



C.O.G.S
先端メディア表現コース
金智珉

卒業・修了制作展 優秀賞



Digital Emotionscape
先端メディア表現コース
加藤陽介

卒業・修了制作展 優秀賞





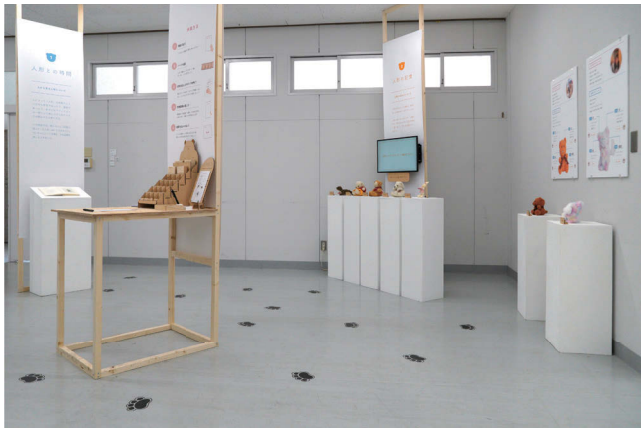
VIDA
 カーデザインコース
 西田涼兵

卒業・修了制作展 優秀賞



honoiro
 インダストリアル&
 セラミックデザインコース
 山本遥菜

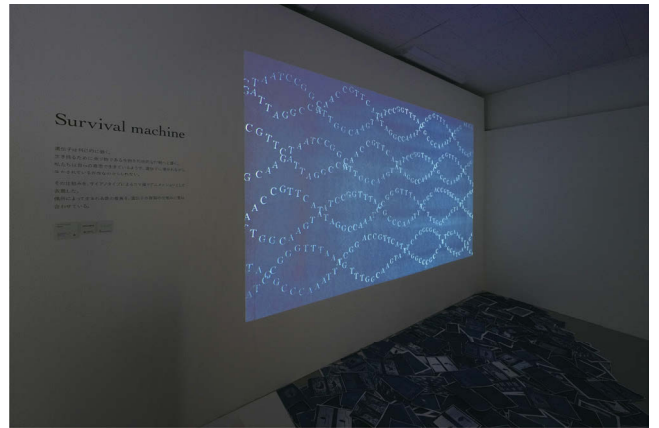
卒業・修了制作展 優秀賞



ものところのあいだ
 先端メディア表現コース
 廣瀬美颯

卒業・修了制作展 優秀賞

加藤画材店賞



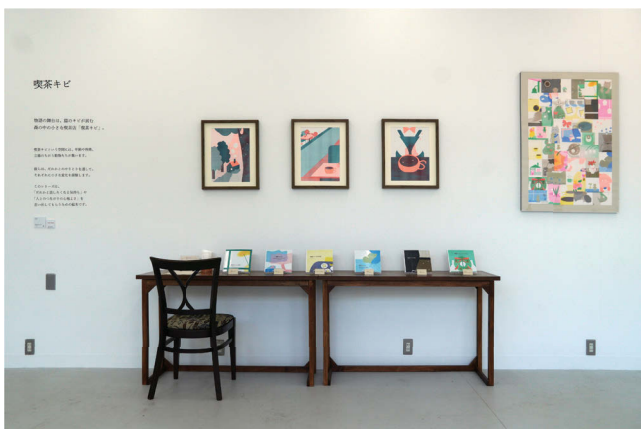
Survival machine
 メディアコミュニケーション
 デザインコース
 瀬瀬朋佳

卒業・修了制作展 優秀賞

ブライトン大学賞 奨励賞

東海テレビ賞

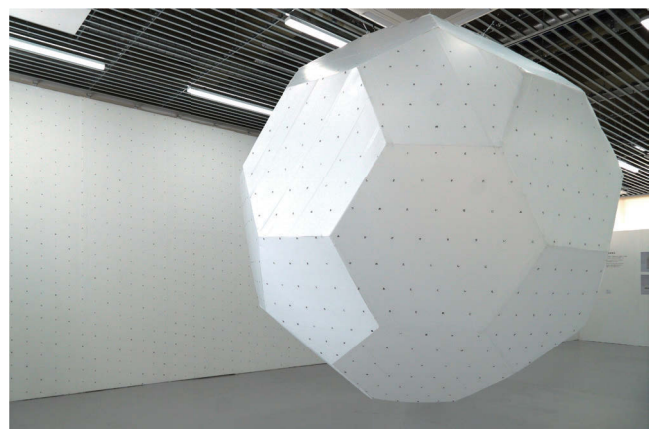
(一社) 洛陽 NUA キャリア 法務 支援 機構 賞



喫茶キビ
 メディアコミュニケーションデザインコース
 林弓月

卒業・修了制作展 優秀賞

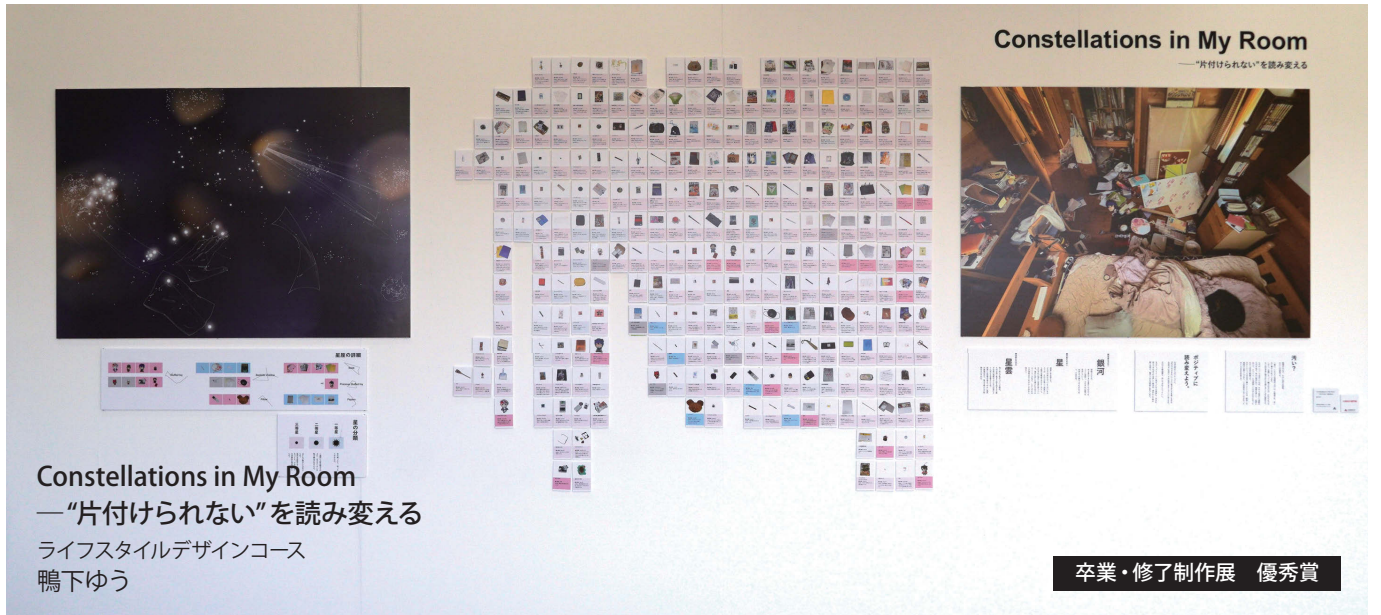
ジェイアールセントラルビル賞



文字宇宙
 ヴィジュアルデザインコース
 鈴木麻桜

卒業・修了制作展 優秀賞







「見る」から「感じる」へ
 ヴィジュアルデザインコース
 加藤もも

卒業・修了制作展 優秀賞



忌避
 メタル&ジュエリー
 デザインコース
 三角明日香

卒業・修了制作展 優秀賞



Dual in the sweet cafe
 テキスタイルデザインコース
 山本舞瑠

卒業・修了制作展 優秀賞



コドモゴコロ復活大作戦！
 スペースデザインコース
 後藤舞衣

卒業・修了制作展 優秀賞



紙変幻～場をつなぐ、
 やわらかな境界～
 スペースデザインコース
 田中遥乃

卒業・修了制作展 優秀賞

美濃紙芸賞



距離と変化
舞台美術コース
大場有乃

卒業・修了制作展 優秀賞

ブライトン大学賞 大賞



絵本をめぐるアートワールド
『ごんぎつね』の挿絵
および絵本に着目してー

卒業・修了制作展 優秀賞

リベラルアーツコース
三浦あづさ



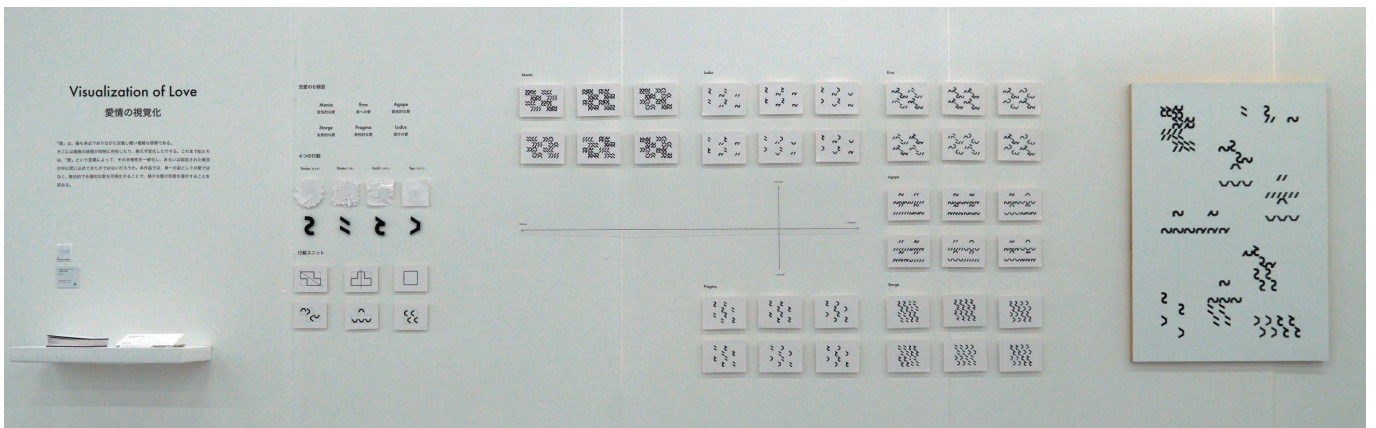
ヘリオスの子に翼はあらず
文芸・ライティングコース
浅岡美月

卒業・修了制作展 優秀賞



しかん45°
一紙管のある暮らしー
スペースデザインコース
藤居航

ブライトン大学賞 奨励賞



Visualization of Love / 愛情の可視化
ヴィジュアルデザインコース
徐于徑

ブライトン大学賞 優秀賞



CORN

現代アートコース
嶋野文台

ブライトン大学賞 佳作



Series:sei

現代アートコース
野田悠佳

ブライトン大学賞 佳作

画荘ヴィーナス賞

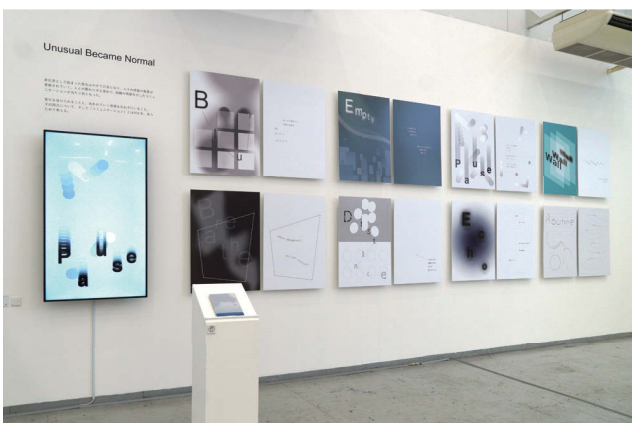


立体家紋

-生活に寄り添う家紋のあり方-
インダストリアル&セラミックデザインコース
濱口奈々

ブライトン大学賞 佳作

名古屋みなと蔦屋書店賞



Unusual Became Normal

メディアコミュニケーションデザインコース
東真優

ブライトン大学賞 佳作



mater

コミュニケーションアートコース
辻菜心

ブライトン大学賞 佳作



卒展期間中イベント 第53回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞・第29回ブライトン大学賞 授与式

西キャンパスB棟大講義室にて、第53回名古屋芸術大学卒業制作展の優秀賞、企業賞、および第29回ブライトン大学賞の発表と授与式を執り行いました。

はじめに、本学学長 來住尚彦が挨拶し、受賞者への祝意とともに、作品と作家の双方が輝くことの大切さを伝えました。作品を愛する人は作家自身も愛する存在

であり、優れた作品づくりと同時に人間的成長も重要であると強調。「可能性は無限だが、時間は有限」との言葉を贈り、限られた時間の中で挑戦を続け、心に残る作品を生み出してほしいと期待を寄せました。

続いて、副学長 萩原周が、受賞者の努力と成果に敬意を表するとともに、AI

をはじめとする技術革新が進む不確かな時代において、卒業制作・研究が社会の緊張感や不安を映し出していたことに触れました。学生たちは自身の経験や問題意識をもとに表現へと昇華し、その完成度と発信力が高く評価されました。大学で培った思考力と感性を糧に、それぞれの社会で自分らしい歩みを続けてほしいと期待を寄せました。

卒展期間中イベント 名古屋芸術大学ローターアクトクラブ主催 第4回チャリティーオークション

名古屋芸術大学ローターアクトクラブ主催による「第4回チャリティーオークション」を開催しました。

名古屋芸術大学ローターアクトクラブは、18歳以上の若者が集まり、地域社会のリーダーとの交流を通してリーダーシップや専門的なスキルを育みながら奉仕活動を行う団体です。NPO法人や他のロー

ターアクトクラブとの協働など、これまでさまざまな活動を行ってきました。

本オークションは、売上の一部をポリオ根絶を支援するロータリー財団へ寄付し、エンドポリオの活動を広く知ってもらうこと、また学生作品を販売することで作品と社会のつながりや市場価値を知る機会とすることを目的に企画されました。



売上は206,700円、寄付金額は19,670円となり、公益財団法人ロータリー日本財団を通じてポリオ根絶支援のため寄付されます。

卒展期間中イベント 卒業制作展記念講演会 皆川明氏「クリエイションと社会のつながり」

ファッション・テキスタイルブランド『minä perhonen』デザイナー 皆川明氏を迎え、「クリエイションと社会のつながり」と題し卒業講演会を開催しました。

講演では、自身の創作の原点や30年にわたるものづくりの歩みを振り返りながら、「クリエイションは社会と切り離されたものではなく、使う人と作る人の喜びを

つなぐ営みである」と語られました。デザインは単なる商品開発ではなく、素材や技術、時間、人の記憶までも含む循環の中にあるものだといいます。効率やスピードが重視される現代だからこそ、時間をかけて丁寧につくる姿勢が社会の豊かさにつながるのではないかと述べられました。

質疑応答では、速さや効率が支配する



社会の中で表現者として立つためには、「自分にとって心地よい速度を見失わないこと」が大切だと述べ、会場に集まった学生や教員に深い印象を残しました。

音楽領域、舞台芸術領域、大学院でも、それぞれのコースで学んだ
学びの集大成となる卒業・修了公演が行われました。



ミュージカルコース・声楽コース卒業公演
“Little Women ～若草物語～”
“喜歌劇「メリー ウイドウ」(陽気な未亡人)”

2026年3月5日(木)・6日(金)・8日(日)にわたるミュージカルコース/声楽コースの卒業公演は、名古屋芸術大学と西文化小劇場の提携事業として、2作品連続公演となりました。

ミュージカルコースはルイーザ・メイ・オルコットの名作小説を舞台化した『Little Women ～若草物語～』を、声楽コースはオペレッタ白銀時代の名作『喜歌劇「メリー ウイドウ」(陽気な未亡人)』を上演しました。



舞台芸術領域2期生卒業公演
音楽劇「銀河鉄道の夜」

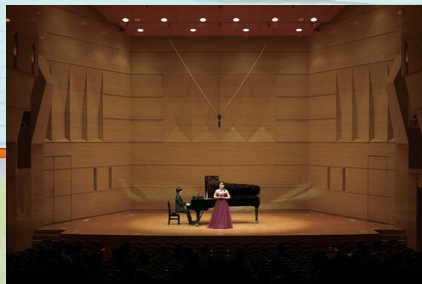
2026年2月22日(日)、アマンノ芸術創造センター名古屋にて、舞台芸術領域2期生による卒業公演、音楽劇『銀河鉄道の夜』を上演しました。

舞台芸術領域の各コースが舞台美術・照明・音響・プロデュースを担当し、演者・演出にはプロの方をお招きして、宮沢賢治の彩り豊かな名作を音楽とともに描く音楽劇として、神秘的な銀河鉄道の世界観を表現しました。



ダンスパフォーマンスコース
第4回卒業公演
「DANPA !～ Afterglow ～」

2026年2月22日(土)
東キャンパス3号館ホール



第53回卒業演奏会

2026年3月12日(木)
電気文化会館 ザ・コンサートホール



第28回 大学院修了演奏会

2026年3月11日(水)
電気文化会館 ザ・コンサートホール



表紙について

卒業・修了制作展最優秀賞
『侵食、運搬、堆積』
洋画コース 堀出奏月

「名古屋芸術大
グループ通信」
ウェブサイトを



発行：名古屋芸術大学
企画・編集：広報部
デザイン・協力：くまな工房一社
印刷：株クイックス
発行：2026年4月

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報部
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0318
FAX 0568-24-0369

